
Am I boy, or girl

ぞぬ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

A m I b o y, o r g i r l

【Nコード】

N 4 0 1 0 Q

【作者名】

ぞぬ

【あらすじ】

主人公立花歩は遊び金ほしさにバイトを探していた。大学からの帰り道新人オーナーである近衛こなたにバイトを紹介された。

仕事との出会い（前書き）

この小説は作者が書きたかったから書いたオナニー小説であります。
それでも良ければ読んでください。

仕事との出会い

大学からの帰り道、私は求人誌を見ていた。登校時に地下鉄で仕入れたものだ。親からの仕送りや奨学金があるから、別に働く必要はないが、遊んで暮すだけの余裕もないから、遊ぶ金欲しさにアルバイトを探しているわけだ。ただ、今見ている求人誌を見渡しても、大学の授業の邪魔にはならず、なおかつある程度の収入が得られるアルバイト先を探しているのだが、いかなせん不景気な世の中、そんな都合のいいバイト先は見つからなかった。

講義の単位を一つでも落とすか、収入が低くても我慢するかのどちらかにするか迷っていると後ろから、

「すいません？少しよろしいでしょうか？」

と声をかけられた。振り向いてみるとそこにはスーツ姿の20代後半の女性が立っていた。

「なんでしょうか？」と聞いてみると耳寄りな情報が返ってきた。

「あの、求人誌を持っていることはアルバイト先を探していることですよ？よろしければ私たちの店で働いてみませんか？今人手が足りなくて困っているのですよ。そちらの都合を優先させますし、給料はある程度は約束します。」

と正直胡散臭いことを言われた。

しかし、私も困っていることは事実だ。余り悩みもせずに「詳しい話をお願いします。」と答えた。すると、

「ありがとうございます。立ち話もなんですし、私たちの店にまず来てみてください。」

といきなり私たちの店という所に連れて行かれることになった。

「ここが私の店です。」

と自慢げに紹介された。場所は大学から自転車で15分の所であり問題はない。

ただ、問題があるとすれば、看板に「メイドカフェでようこそ」と書かれていることだ。

いくらなんでも、アルバイトを紹介されたと思ったらそこはメイド喫茶だった、という普通ではあり得ない状況になったわけだ。

しかし、ここまで来たのだから店に入り詳しい話を聞くことにした。

労働時間は土日8時間勤務で、時給1050円。飲食店にしては結構好条件である。仕事内容はキッチン補助ではなくホールスタッフ、つまりメイドとして客に接するわけだ。

この段階で相手の人がある勘違いしていることに気付いたが、余りに仕事条件について熱心に話す姿を見ると、話を遮る気にはなれなかった。頑張っている子を見ていると応援したくなる印象である。相手の方が年上であるに違いないのだが。

仕事内容について一通りの説明が終えた後、ようやく私が話を切り上げようとした時に、

「それでは、服の採寸をとります」

とまるでバイトが決まったように言われた。この人の特性の一つに「人の話を聞かずに物事を行う」があることがわかった。

とはいえ、私としてもこれ以上無駄な時間を取りたくないので、きっぱり言うことにした。

「僕は男ですよ。」

相手はぽかんとした表情をしていた。

昔から女に間違われてしまうことが多かったので驚きもしない。

髪型は男性としては長めだが女性としてはボーイッシュと言われるほどの長さであり、顔立ちは男性・女性の両方に見てとれる中性的な印象を持っており、服装は長そで・長ズボンと男性・女性の両方が着ていてもおかしくないものである。だから、見方によっては化粧気のないボーイッシュな女性と見ることができる。

今までも何人かの男性からナンパを受けたことがあったが、私が

男性であると伝えしだい「ウソ」と動揺して去ってしまったものである。女性からバイトの紹介を受けたことは初めてであったが、今回も相手の勘違いに終わると思われた。すぐにでも

「いいね。むしろいい。男の娘。うちの店に無かった性質よ。すぐにでもうちの店で働いてくれないかな。」

と謝罪の言葉が返ってくるに違いないと、へ？

ちよつと待て、聞き間違いだよな。おそろおそろ「すみません。もう一度お願いします」と聞きなおしてみた。聞き間違いに違いない……

「だから、うちの店に入ってくれないかなって言っているのよ。服装のことは私が準備するし、他の子にもちゃんとフォロー入れておくから大丈夫よ。それとも何か心配事あるの？もし給料に不満があるのなら時給上げるよ。」

……。うん聞き間違いではないみたいだな。女性から私のことを女性だと見られたことは最初であったが、男性であると伝えても「それでも良いよ。」と言われたのは以外であった。

とはいえ、私もバイトを探していることは事実である。自然と口から「心配事なんてありませんよ。むしろ、大船に乗った気でいてください。」とほらが出た。

そうして、私はアルバイトを始めることになった。仕事内容はメイドで性別は男という、変な立場でのバイトの始まりである。

仕事との出会い（後書き）

今回小説を書いたのは初めてであり、面白くなかったとは思いますが、これからの展開で面白くしようと頑張りますので、アドバイスがあれば教えてください。

自己紹介と他者紹介（前書き）

あまり考えずに書き始めたので、話のネタが不足しています。何かネタになるような設定を思いついたら教えてください。

自己紹介と他者紹介

そういうわけで男の私がメイドとして働くことになったわけだが、そうなると同僚との関係が気になるわけだ。女が中心の職場に男が隠れて働くことになるといった「これなんてエロゲ」と言われる、マンガや小説にしかないありえない状況が出てくると思われる。

だが、私の場合は働く前に男であることがばれてしまった。

というのも、オーナーである近衛　こなたさんが同僚に紹介する段階でばらしてしまったのだ。その時私のスカートはめくり上げられてしまい、メイドのスカートのランクスが丸見えという状況で紹介された。

うん、今考えてもこんな紹介の仕方はあり得ない。非常識である。さらに悪いことに、同僚の一人前原　進に

「パンツははかないのですか？」

と言われてしまい、オーナーもその気になり、その場でランクスを脱がされ予備のパンティーを穿かされてしまった。これからのメイド姿での下着はパンティーになる。

後でわかったことだが、パンティーの予備は同僚の一人田中　玲子のお古であるらしい。その上、渡辺　裕子との店内レスプレイ後のお古であるらしいからさらに悪い。

ここまで言えば分かるようにこのメイドカフェには変人しかいない。私とオーナー、同僚についてまとめると以下のようなになる。

立花　歩……………この店で働く前はしがない大学生であったが、オーナーに誘われて男性なのにメイド喫茶で働くことになる。私としては立場等はどうでもよく、働けてお給金がもらえることの方が大切である。また、いろんな情報を集める趣味もあり、たまに変な情報を話すことがある。

近衛　こなた…………元OLであったが宝くじを当たったことをきつ

かけに退社。今の「メイドカフェにようこそ」の店長兼オーナーである。そのため、お金には困っておらず、自分の面白さを中心に店員や店の様子を変えることができる。オタクでもあり、いろんな属性の娘を募集するのが今の楽しみである。

前原 進……同僚の一人であり、ツルペタ・クール系の女性。本を読むことが好きであり、小説や漫画でしかないカオスな状況を好む。そのため、オーナーの暴走を止めるふりをして油を注ぐことがよくある。

田中 玲子……同僚の一人であり、体系は進と似てツルペタ。熱血系でもあり、店内のムードを盛り上げるトラブルメーカー。その上、裕子とはレス仲間であり、裕子と二人にしておいたらレスを始めてしまう。なお、レスプレイではSであるが、精神的にはMである。

渡辺 裕子……同僚の一人であり、この店では珍しくナイスボディを持つ。玲子の保護者兼恋人であり、玲子に悪い虫がつくことを嫌う。なお、合気道経験者であり、ものすごく強い。

メイドカフェにようこそ……近衛こなたが始めた店であるが、方針が定まっておらず店内の様式は安定しない。その上、働く人が少ないため、まだ開店はしていない。

ついでに紹介したから分かることだが、私たちの店「メイドカフェにようこそ」は店員不足のためまだ開店していない。それはオーナーであるこなたが「とりあえず面白く」という抽象的な方針を取っているためである。

だから、今は土日に集まり方針をオーナーの代わりに様式を決めている段階である。ただ、5人ともメイド喫茶に行ったことがなく、どのようなものかわかっていないため、未定のまま先延ばしをしている現実がある。現在の方針はとりあえず店員を増やそうとのこと。

もういい加減である。私としては会議だけで給料をもらえている

ため満足しているが。

自己紹介と他者紹介（後書き）

とりあえず、思いついた設定を書いてみたが、見切り発車しているため設定が未決定なことが多い。とりあえず、開店するために情報収集や店員募集をしていく方針で行きます。何か良い設定があれば教えてください。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4010q/>

Am I boy, or girl

2011年1月28日10時16分発行